

# Tobu通信

鳥取県教育委員会事務局  
 東部教育局  
 〒680-0061鳥取市立川町六丁目176番地  
 東教発 R 3. 8. 2 7 No.169  
<https://www.pref.tottori.lg.jp/t-kyoiku/>

## 職員同士で学び合い まずは使ってみよう！ 岩美町立岩美西小学校

岩美西小学校では、ICT活用に係る行動目標を設定し、ICTを普段使いできる場面づくりに取り組んでいます。校内研修でICT活用のスキルアップをすることはもちろんですが、日々の授業の中で教職員一人一人の使っていこうという意識が定着しています。今回は、その取組の一部を紹介します。

### 職員室で相談・情報共有

放課後の職員室には、安心して発言できる雰囲気があり「どんな使い方ができる？」「こんな授業をしたいんだけど？」と声を出せば誰かがアドバイスや使い方を教えてくれる場になっています。また、それぞれの実践を職員同士で情報共有し、さらにみんなのもの、よりよいものへ改善していきます。



### 目標設定

昨年度よりICT活用ハンドブックをもとに行動目標「3つのスキル」を掲げ、授業に取り組んでいます。

- ①カメラ機能を使う授業場面をつくる
- ②ファイル共有機能を使う授業場面をつくる
- ③Google Formsの機能を使う授業場面をつくる

### ICT推進員を中心に

ICT活用を進めるには校長先生のリーダーシップのもと、キーパーソンとなる存在が必要です。ICT推進員が中心となり研修を計画したり、情報提供したりしています。



#### 2年生 国語「かたかなのひろば」

写真をもとにカタカナに書き表して文を作りました。自分たちが撮った写真が提示されることで意欲的に取り組むことができました。

#### 3年生 算数「時ごとと時間」

タブレットのタイマー機能を使い、秒針の動きを意識した学習をしました。細かい時間が捉えやすく、理解を促すことができました。

月・水・金の朝は「すらら」の日 e-ラーニング教材を使って学力の定着を図っています。また、習慣化することで機器の操作に慣れる機会にもなります。

ICT活用を進めていくために、参観日に使ってみようという目標を設定したり、研修をしたりすることが多くの学校で行われています。それらのことをきっかけとして、日々教職員が試行錯誤しながら使い、慣れていくことがスキルアップにつながります。また、安心して相談し合える教職員集団が育つことでより一層の推進が図れます。

## 学びと生活とを結び付けて

### 局長 長谷川 隆

先日オンラインで、東部教育局主催の授業改善ワークショップを開催し、多くの先生方に参加いただきました。今回は、小学校算数単元到達度評価問題をもとに授業づくりについて検討する内容でした。各学年のグループに分かれて実際に問題を解き、子どもたちのつまづきや身に付けさせるべき力、授業づくりの悩みなどの意見交換を行いました。短時間でしたが、有意義な意見交換ではなかったかと思えます。その中でこのような話題がありました。絵を見て重さの単位を選ぶ問題です。例えば「トラック」の絵であれば「t（トン）」。先生方の中には、「サービス問題だと思ったが、意外と子どもたちが間違えていて驚いた。」という感想がありました。そのことについて、「子どもたちの学びと生活とを結び付けていくこと」や、「物差しになる身近なものを伝えている」という経験を踏まえた意見もありました。その話を聞いていて、なるほど大切なことだなと考えさせられました。

先頃開催された東京オリンピックでは、コロナ禍の中で、世界中のアスリートが大会への思いを体現し、私も多くの感動をもらいました。ただ今回の大会で改めて強く認識させられたのが、SNS上でのアスリートへの誹謗中傷です。それを受け取ったアスリートのみなさんが心を痛めている状況は、許されることではありません。そういった心ない、また中には無意識に人を傷つけてしまう行動を起こすのは、ネット上の目の前にいない相手、実生活とは少しかけ離れた世界であることが、一つの要因ではないかと考えます。

私たちは学校という場で、学びと実生活との結び付きを意識し、リアルな人と人との結び付きを大切にしながら、互いを認め合い、ともによりよい社会を創っていくための物差しを、子どもたちと一緒に考えていくことが求められていると改めて感じているところです。

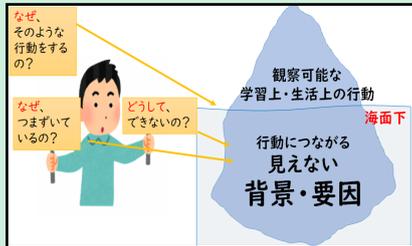
# 特別支援教育コーナー 「冰山モデル」を活用した個別の指導計画の充実

園や通常の学級において、教育的支援を必要とする幼児児童生徒の学校生活全般における具体的な指導目標や内容、支援や配慮事項などを記載した「個別の指導計画」の作成が進んでいます。学習上または生活上の困難は一人一人異なるため、実態を的確に把握することが、「個別の指導計画」の効果的な活用につながります。ここでは「冰山モデル」を活用して実態を把握し、支援を考える方法を紹介します。

## 「冰山モデル」を活用して実態を把握し、行動の背景・要因に着目して支援を考える

### 冰山モデルとは？

課題となっている行動を氷山の一角として捉え、氷山の一角に注目するのではなく、その海面下にある要因に着目して実態や支援を考える方法



なぜ、そのような行動をするのか、その背景にある要因に視点をあてて支援を考えることが大切です。

- ・校内の関係者から情報を収集するなど、多面的・多角的に情報を整理することで、実態をよりの確に把握することができます。
- ・本人・保護者の了承の上、心理学的な立場、医学的な立場からの情報や、利用する福祉施設等からの情報を収集することも重要です。

### ＜例えば＞

#### 背景・要因に「聞こえ方」の問題があったケース

- ・指示が伝わらない。
- ・聞き漏らしが多い。
- ・注意を繰り返しても改善されない。

#### なぜ？

- ・校内で情報収集すると、以前から慢性の中耳炎があることが判明。
- ・受診できていないことも分かり、保護者に受診をお願いした。
- ・水の中にいるような状態で聞こえていることが分かった。

## 困っていることの実態を「冰山モデル」の視点で見る

### ＜例えば＞ 困っていることの実態（低学年児童）

- ◇生活リズムが不規則になりがちで、欠席や遅刻が多い。
- ◇思うようにいかないと、衝動的に手を出したり物を投げたりしてしまう。

背景にある要因を考える



#### 苦手さ

- ・覚醒と睡眠のリズムが不規則になりやすい。
- ・注意や集中の持続が困難で、自分のことを省みるが苦手。
- ・自他の気持ちや見聞きした状況を言葉でうまく表現できない。

#### 長所・よさ

- ・することが分かり、見通しがもてると最後まで取り組もうとする。
- ・興味・関心があると集中して取り組める。

#### 本人に関すること

長所やよさ、興味・関心、すでにできていることなどを指導・支援に生かす視点が必要。

#### 学級環境

- ・相手を気遣って行動できる子どもが少ない。
- ・子ども同士のトラブルが多い。

#### 家庭環境（保護者の状況）

- ・小さな兄弟がおり、本見だけに費やす時間を確保しにくい。
- ・具体的な声のかけ方やタイミングが分からず、困っている。

#### 周囲の環境に関すること

保護者の状況を考慮しながら連携を図ることや、担任以外の教職員とも関わり方を共有しておくことが大切。

## 実際の「個別の指導計画」(例)

### 【長期目標】

- ◇休まずに登校する。

#### 《担任の思い》

- ・学校にリズムよく登校してほしい。
- ・保護者と一緒に取り組みたい。
- ・本児の自覚や学校への気持ちを高めることはできないか。

- ◇思うようにならない気持ちを言葉で伝えることができる。

#### 《担任の思い》

- ・自分の思いを受け止め、理解してもらえたという心地よさを感じてほしい。
- ・他の先生にも実態を知ってもらい、同じ関わりをしてほしい。

### 【短期目標】

- ◇遅刻してもよいから、休まずに学校へ来る。(4月)
- ◇夜、9時半には寝る。(5月)
- ◇朝、6時半に起きる。(6月) ※家の人と登校してもよい。
- ◇みんなと一緒に登校する。(7月)

月ごとに目標を設定。本人、保護者とも目標や取組を話し合い、共有。

- ◇表現できない気持ちの伝え方を知る。

どう表現してよいか分からない。まずは、伝え方を知ることから。

### 【主な具体的な支援】

#### 《担任の思い》

- ・保護者と連携し、双方向からサポートしたい。
- ・本人にもめあてをもって取り組んでほしい。

- ◇「キャラクターがんばり通帳」にコインを貯める。



- ・興味のあるキャラクターを活用。
- ・がんばりが可視化され、保護者からの称賛の声もかけられる。

- ・1コイン、2コイン、スペシャルコインと、内容に応じてコインシールをゲット。
- ・本人と確認した目標をコインゲットの項目に入れ、放課後、通帳に貼る。

- ◇気持ちを受け止め、うまく言葉にできない場合は、担任が言語化する。(「腹が立った。」「嫌だった。」など)

どこでも同じ対応となるよう他の先生とも共有。

紹介した実践は、保護者の状況を考慮し、見通しがもてるとがんばれる本人のよさを生かしたものです。その後、保護者の送迎ではあるものの決まった時間に登校できるようになったこと、トラブルの際に自分の気持ちを表現できるようになってきたことを担任の先生からうかがいました。「個別の指導計画」を効果的に活用するため、幼児児童生徒の変容や指導・支援の在り方を「冰山モデル」の視点で整理・見直し、一人一人の実態に応じた「個別の指導計画」を作成していきましょう。

社会教育  
コーナー



「だれもが参加 みんなでつくる ふるさと大村」  
大村地区公民館（鳥取市用瀬町鷹狩）



大村地区公民館では、様々な公民館事業を通して多世代が交流できる活動を長年続けており、公民館を中心に、子どもが活躍し地域が一丸となれるように取り組んでいます。

町が好き

地域みんなで育む郷土愛

人が好き

赤波溪谷清掃・おう穴まつり

清掃により安全な環境を提供。地形を生かした天然ウォータースライダーや沢登り。毎年、子どもたちが楽しみにしているヤマメのつかみ取りとBBQ。



こんなに楽しい所があるなんて知らなかった！

大村の自然は素晴らしいだろう！

自然  
大人 子ども

多世代の  
絆づくりを  
公民館が  
コーディネート

大村地区大運動会

役員として活躍する中学生に小学生はあこがれをもつ。地域の大人が子どもに声をかけ、交流が促進。



放送係をがんばっています！

小中学生参加のクリーン活動

住民みんなでの清掃を通して、公共マナー・ルールの涵養。



大村ふれあい喫茶

憩いの場。宿題をするために来た近所の小学生への大人の声かけなど、多世代交流の場。公民館事業で作製した作品を展示。

宿題を教えてもらってうれしかったです。

大村地区公民館は「つどろ・まなぶ・むすぶ」をキーワードに、住民に一番近い公共施設として、地域の「絆づくり」に取り組んでいます。世代間交流による賑わいの創出、地域のよさの再発見、環境保全や美化意識の高揚、共同体験による連帯感の醸成など、大村地区公民館の取組によって、未来を担う子どもたちの心に地域への郷土愛が育まれています。

学事コーナー

「新 鳥取県教育委員会 学校業務カイゼンプラン」が策定されました

平成30年3月に策定された「学校業務カイゼンプラン」にもとづき、各学校で時間外業務の削減目標を掲げ、働き方改革に取り組まれてきました。その結果「複数の校種で月当たりの時間外業務時間が、平成29年度比25%減を達成」「全校種で月80時間以上の長時間勤務者が半減」するなど、一定の成果が得られています。これまでの成果と課題を踏まえ、今年4月に「新 鳥取県教育委員会 学校業務カイゼンプラン」が策定されました。下記の内容を参考にいただき、ぜひとも前例にとらわれない発想で働き方改革を進めていきましょう。

新カイゼンプランの概要

目的	教員がこれまでの働き方を見直し、教員がこれまでの学校教育の蓄積と向かい合って自らの授業を磨くとともに、日々の生活の質や教職員人生を豊かにすることで、自らの人間性や創造性を高め、児童生徒に対して効果的な教育活動を行う。
計画期間	3年間（令和3年度～令和5年度）
目標	時間外業務が月45時間、年間360時間を超える長時間勤務者の解消
重点取組事項	計画期間中、次の3項目の取組を特に強化する。 ① ICT等の活用による業務の削減、効率化推進 ② 学校及び教員が担う業務の明確化 ③ 部活動の地域移行の検討

「新カイゼンプラン」の詳細については、こちらからご確認ください。



<実践事例の紹介>

- アンケートなど校務や学校運営で活用できる共通学習用ツールの利用（Google Workspace等）
- 登下校に関する指導（交通立ち番等）
- C4thによる連絡
- ペーパーレスの職員会

例えば、交通立ち番でコミュニティ・スクールを活用し、地域の方々に指導していただくなど、役割分担を進めることで教員の業務改善につながっています。

<お知らせ>

文部科学省HPより、全国の学校における働き方改革事例集（令和3年3月）が紹介されています。各学校や地域の実情を踏まえながら、働き方改革推進のための参考にしてください。